

# 第6章 不安、関心、満足度

東京大学大学院教授 武川正吾

## I 悩みやストレスの有無 (Q52)

### 1 各国の特徴

表6-1は、「現在、日常生活で悩みやストレスがあるか」という質問に対する各国別の回答結果である。「大いにある」と答えたひとの割合は、日本が5.7%で5カ国中最も少ないのに対し、韓国は22.5%で最も多い。反対に、「まったくない」と答えているひとは日本が55.2%で最も多く、ドイツが26.8%で最も少ない。日本は、5カ国のなかでは、高齢者が最も「日常生活における悩みやストレス」を感じる事が少ない国である。

また、東アジアと欧米を比較してみると、両者の間の違いよりも、それぞれの中での違いの方が大きいことがわかる。すなわち、日本とアメリカは、悩みやストレスをもつ高齢者が少ないという点で似ており（「まったくない」と答えたひとの割合はアメリカが日本に次いで多い）、他方、韓国、ドイツ、フランスは、悩みやストレスをもつ高齢者が多いという点で似た傾向にある。

この質問項目は、第5回調査の時から採用されており、第5回と今回で共通して対象となっている国は、日本、韓国、アメリカ、ドイツである。これら4カ国について5年間の変化を見てみると次のような結果となる。東アジアの日本と韓国は、前回調査のときよりも悩みやストレスのあるひとの割合が減り、悩みやストレスのないひとの割合が増えている。ところが欧米のアメリカとドイツの場合には、悩みやストレスのあるひとの割合が増えて、悩みやストレスのないひとの割合が減っている。とくにドイツでの減り方が大きい（65.2%→26.8%）。ここでは東アジアと欧米との違いが出ている。

表6-1 日常生活における悩みやストレス

(%)

	日本	アメリカ	韓国	ドイツ	フランス
大いにある	5.7	7.0	15.5	13.7	14.7
少しはある	39.0	45.7	45.9	59.4	50.4
まったくない	55.2	47.2	38.6	26.8	35.0
無回答	0.1	0.1	-	0.1	-

### 2 男女別・年齢別にみた特徴

次に、悩みやストレスの有無を男女別にみてみよう。表6-2がその結果を示している。いずれの国も女性の回答者が男性の回答者より多かったが、この点を割り引いて考えても、各国で共通して、女性の方が男性よりも悩みやストレスを感じているひとの割合が多いという結果になっている。とりわけフランスにおける男女差は顕著で、調査対象者全体のなかの女性の割合は57.7%であるのに対して、悩みやストレスを大いにあると感じているひとのなかでの女性の割合は76.2%に達してい

て、20ポイント近く開いている。韓国、アメリカ、ドイツも軒並み12ポイント以上の違いがある。これに対して、日本の場合は、大いにあると答えたひとのなかでの女性の割合が58.3%、全サンプルの中での女性の割合が54.2%と4ポイント程度の違いであって、それほど大きくない。女性の方が男性よりも悩みやストレスを感じているという点では、日本も他国と共通であるが、男女差は他の国ほど大きくない。

表6-2 男女別にみた悩みやストレスの有無 (%)

		男	女
日本	大いにある	41.7	58.3
	少しはある	46.0	54.0
	まったくない	46.2	53.8
アメリカ	大いにある	30.0	70.0
	少しはある	40.5	59.5
	まったくない	47.5	52.5
韓国	大いにある	30.4	69.6
	少しはある	40.0	60.0
	まったくない	49.4	50.6
ドイツ	大いにある	28.6	71.4
	少しはある	40.6	59.4
	まったくない	50.4	49.6
フランス	大いにある	23.8	76.2
	少しはある	39.3	60.7
	まったくない	54.4	45.6

表6-3は、年齢別にみた悩みやストレスの有無をみたものである(表中の太字は、全体の%よりも5ポイント以上多いことを示している)。これによると年齢による顕著な変化を見出すことは困難である。しかし、いずれの国でも、悩みやストレスが少しはあるという回答は60歳代前半が多い。とくに日本とアメリカでこの傾向が顕著である。反対に、悩みやストレスがまったくないという回答は、後期高齢層や85歳以上のところが多い。ドイツと韓国では悩みやストレスをまったく感じない人びとは85歳以上のところが多く(ただし韓国の場合には、ストレスを大いに感じているひとの割合も85歳以上のところが多いことに注意する必要がある)、日本の場合には、80-84歳のところが多い。

表6-3 年齢別にみた悩みやストレスの有無

		(%)						
		60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85歳以上	全体
日本	大いにある	6.5	8.5	3.5	6.3	3.0	4.8	5.7
	少しはある	<b>46.2</b>	40.2	37.0	35.4	32.3	38.7	39.0
	まったくない	47.3	51.2	59.0	58.2	<b>64.6</b>	56.5	55.2
アメリカ	大いにある	10.8	6.9	6.6	2.5	9.6	3.1	7.0
	少しはある	<b>50.2</b>	44.6	46.2	42.6	39.4	46.9	45.7
	まったくない	39.0	48.5	47.2	54.9	51.1	49.0	47.2
韓国	大いにある	13.7	18.4	13.2	13.9	16.7	<b>20.8</b>	15.5
	少しはある	47.4	45.9	47.1	43.4	44.4	33.3	45.9
	まったくない	38.8	35.6	39.7	42.6	38.9	<b>45.8</b>	38.6
ドイツ	大いにある	14.5	11.2	15.2	12.3	15.3	15.6	13.7
	少しはある	62.8	60.1	59.7	58.9	54.2	48.9	59.4
	まったくない	22.8	28.8	25.1	28.1	30.5	<b>35.6</b>	26.8
フランス	大いにある	11.1	15.0	16.5	15.9	13.9	18.4	14.7
	少しはある	54.9	50.9	46.4	47.3	52.8	48.7	50.4
	まったくない	34.0	34.1	37.1	36.8	33.3	32.9	35.0

### 3 悩みやストレスを高める要因

#### (1) 分析方法

これまでの調査では、性別や年齢よりも経済状態や健康状態の方が悩みやストレスにとって影響があるということが分かっている。この点を今回の調査でも確かめてみよう。表 6-4 は、悩みやストレスの有無をロジスティック回帰分析という統計手法で分析した結果である。この分析方法を用いると、それぞれの属性が悩みやストレスの有無に対してどれくらいの影響を与えているかを知ることができる。

この表からは、悩みやストレスを感じる確率が、男女のあいだでどれくらい違うか、年齢が 74 歳以下と 75 歳以上ではどれくらい違うか、健康状態が悪くないひと（健康なひとと、健康ではないが病気でもないひとの合計）と悪いひと（病気がちなひとと寝込んでいるひとの合計）のあいだではどうか、日々の暮らしに経済的に困っているひと（困っているひとと少し困っているひとの合計）と困っていないひと（あまり困っていないひとと困っていないひとの合計）のあいだではどうか、といった点を知ることができる。この表の中では、オッズ比が、それぞれの属性のあいだで悩みやストレスを感じる確率の違いを示している。例えば、年齢が 74 歳以下の高齢者が悩みやストレスを感じる確率は、75 歳以上の高齢者の 1.56 倍ということになる。そして表中の有意確率が十分小さいとき（例えば 0.05 未満）に、このオッズ比が統計的に有意な差であることを示す。

表6-4 悩みとストレスの有無に関するロジスティック回帰分析

	回帰係数	標準誤差	カイ二乗	有意確率	オッズ比	95%の信頼区間
性別(男)	-0.06	0.18	0.13	0.72	0.94	( 0.665 ~ 1.327 )
年齢(74歳以下)	0.44	0.18	6.28	0.01	1.56	( 1.102 ~ 2.207 )
配偶者と同居	-0.17	0.49	0.13	0.72	0.84	( 0.323 ~ 2.183 )
健康	-0.96	0.48	4.07	0.04	0.38	( 0.15 ~ 0.973 )
経済的に困窮	1.15	0.26	19.88	0.00	3.15	( 1.901 ~ 5.206 )
定数	0.60	0.65	0.85	0.36	1.83	

#### (2) 分析結果

以上を念頭に置いて表 6-4 を読んでいこう。まず、表 6-4 から、高齢者が悩みやストレスをもつか否かということに対して、男性であるか女性であるかということとは、あまり関係ないことがわかる。表 6-2 では、女性の方が男性より悩みやストレスが多いという結果になっていたが、それは男性か女性かという違いによって生じたのではなくて、その他の要因、例えば、経済的に困窮しているひとが女性の方が多くことによって生じたものだったわけである。

また、配偶者と同居している方が、悩みやストレスを感じないですむように思われるが、この点についても統計的に有意な差は出なかった。

これに対して、年齢、健康状態、経済的な困窮度は、高齢者が悩みやストレスを持つか否かということに統計的に有意な関連がある。

年齢についてみると、すでに述べたように、74 歳以下のひとが悩みやストレスを感じる確率は、75 歳以上のひとの 1.56 倍である。この点については表 6-3 の結果は覆されなかったことになる。

また健康状態についてみてみると、健康なひとが悩みやストレスを感じる確率は、健康状態が悪

いひとの0.38倍である。言い換えれば、健康状態が悪いと悩みやストレスを感じやすくなる。

さらに経済状態についてしてみると、経済的に困っているひとの悩みやストレスを感じない確率は、困っていないひとの3.5倍である。表6-4の要因のなかでは、最も影響力が大きい。

## II 悩みやストレスの内容 (Q53)

### 1 各国の特徴

表6-5は、「日常生活において悩みやストレスがある」と答えたひとが、どのような種類の悩みやストレスを感じているかを示した表である。

日本は、「自分の健康や病気」に悩みやストレスを抱えているひとが39.0%で最も多く、次いで、「子供や孫の将来」が21.0%、「家族の健康や病気」が16.8%、「家族との人間関係」が14.1%となっている。ただし、これら上位4つの項目のいずれについても、他の4カ国に比べると割合が少ない。ここでも、日本の高齢者の悩みやストレスの少なさが確認されたことになる。

韓国の場合は、「自分の健康や病気」が45.9%と最も多いのは日本と同じだが、「生活費」が33.4%で2位になっている点で日本と異なる。また、「生活費」に対する悩みやストレスは韓国が5カ国中最も多かった。これは年金制度の成熟の遅れによるものだろう。このほかでは、「子供や孫の将来」(24.5%)が3位、「家族の健康や病気」(22.2%)が4位となっている。

アメリカの1位は「自分の健康や病気」(51.8%)であり、これは日本や韓国よりも割合が多い。2位が「家族の健康や病気」(36.8%)であり、これは5カ国中最も多い。アメリカの高齢者は、日本に比べて、自分や家族の健康や病気、介護についての悩みやストレスが多いことが特徴である。このほかは3位が「子供や孫の将来」(35.3%)、4位が「生活費」(32.1%)となっている。

ドイツの高齢者の悩みやストレスの1位も他国と同様、「自分の健康や病気」(55.3%)となっている。しかもドイツの場合は、他の四カ国に比べて、この項目が著しく高い。二番目に多いのが「子供や孫の将来」で44.0%である。この項目も他の四カ国に比べるとドイツの高さが目立つ。このほかの項目では、3位が「家族の健康や病気」(33.6%)、4位が「家族との人間関係」(21.9%)となっている。

フランスの高齢者の悩みやストレスは、ドイツの高齢者と同じような傾向を示している。すなわち、1位が「自分の健康や病気」(42.7%)、2位が「子供や孫の将来」(42.5%)、3位が「家族の健康や病気」(33%)、4位が「家族との人間関係」(25.2%)となっていて、ドイツと上位四つの順位がまったく同じである。

表6-5 悩みやストレスの内容

(%)

	日本	アメリカ	韓国	ドイツ	フランス
家族との人間関係	14.1	29.4	17.4	21.9	25.2
友人・知人との人間関係	7.7	8.9	4.0	7.9	3.3
話し相手がない	5.1	5.1	2.9	3.3	4.2
生活費	12.8	32.1	33.4	21.5	19.1
自分の介護	7.4	22.2	6.9	22.3	17.6
自分の健康や病気	39.1	51.8	45.9	55.3	42.7
同居している家族の健康や病気	16.8	36.8	22.2	33.6	33.0
家族や親族に対する介護	7.7	15.8	3.5	8.7	6.1
遺産相続	1.6	3.2	0.6	6.8	2.7
子供や孫の将来	21.0	35.3	24.5	44.0	42.5
仕事	9.3	11.2	12.0	9.0	3.9
その他	9.6	5.1	6.2	7.5	1.8

\* 太字は各国の上位4つ

## 2 国際比較

五カ国で共通して多い悩みやストレスは自分の健康や病気に対するものであり、各国でトップとなっている。また、家族の健康や病気と、子どもや孫の将来に対する悩みやストレスも各国で共通して多い。

反対に、遺産相続、話し相手がないこと、友人・知人との人間関係について不安やストレスを感じているひとが少ないという点も、各国で共通している。また、家族や親族に対する介護についても、アメリカではやや多いが、他の四カ国ではそれほど多くないという点で共通している。

これに対して、バラツキが出てくるのは以下の項目である。

第一に、自分の介護に対する悩みやストレスは、東アジア諸国では少なく、欧米諸国で多い。

第二に、生活費に対する悩みやストレスは、韓国とアメリカの高齢者のあいだで多く、日本・ドイツ・フランスの高齢者のあいだではこれらの国に比べて少ない。

第三に、家族との人間関係に対する悩みやストレスが多いのは、ドイツとフランスである。日本は他の四カ国に比べると家族との人間関係に対する悩みやストレスが少ないが、日本の高齢者が抱く悩みやストレスのなかではこの項目が第4位となっている。

## 3 年齢別の特徴

なお、悩みやストレスは年齢によっても異なると思われるので、日本に限って、この点について確かめておこう。表6-6は、悩みやストレスの内容を年齢階級別にみたものであり、表中の太字は合計の値より5ポイント以上大きいことを示している。すべての項目について一貫した傾向を読み取ることはむずかしいが、この表からもいくつかの点が明らかとなる。

第一に、自分の健康や病気と自分の介護については、当然のことながら、80歳以上の人びとのあいだ悩みやストレスを感じる人びとが多くなっている。

第二に、話し相手がないことに対して悩みやストレスを感じているひとは80歳以上で多くなっている。これに対して前期高齢層や60代前半では、この点に対する悩みやストレスは少ない。要するに、80代を超えたころから、健康上の問題だけでなくコミュニケーションの対する悩みやストレスが高まっているのである。

第三に、同居している家族の健康や病気に対する介護が悩みやストレスの原因となるのは70代前半で多い。配偶者が病気になる可能性がこの年齢層で多いからであろうか。

第四に、60代の高齢者のあいだでは仕事が悩みやストレスの原因となっているが、80歳をすぎると仕事に対する悩みやストレスはまったくなくなる。

表6-6 年齢別にみた悩みやストレスの内容

	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	合計
家族との人間関係	16.3	17.5	8.6	15.2	14.3	7.4	14.1
友人・知人との人間関係	6.1	12.5	5.7	10.6	2.9	3.7	7.7
話し相手がいない	0.0	5.0	2.9	9.1	<b>11.4</b>	<b>11.1</b>	5.1
生活費	14.3	10.0	<b>21.4</b>	6.1	8.6	14.8	12.8
自分の介護	5.1	3.8	8.6	6.1	<b>17.1</b>	<b>14.8</b>	7.4
自分の健康や病気	26.5	35.0	38.6	37.9	<b>68.6</b>	<b>63.0</b>	39.1
同居している家族の健康や病気	15.3	17.5	<b>22.9</b>	15.2	8.6	18.5	16.8
家族や親族に対する介護	11.2	6.3	8.6	7.6	2.9	3.7	7.7
遺産相続	2.0	2.5	1.4	1.5	0.0	0.0	1.6
子供や孫の将来	<b>29.6</b>	16.3	20.0	19.7	17.1	14.8	21.0
仕事	<b>16.3</b>	<b>17.5</b>	4.3	3.0	0.0	0.0	9.3
その他	8.2	10.0	11.4	7.6	11.4	11.1	9.6

### Ⅲ 生きがいを感じる時 (Q54)

表6-7は、各国の高齢者がどのような時に、生きがいを感じるかをまとめた表である。

この表によると、日本の高齢者が最も生きがいを感じている時は、子どもや孫との家族団らんの時である(48.2%)。他の四カ国の場合も、最も多いのは子どもや孫と家族団らんの時であり、五カ国に共通している。2番目に多いのは趣味に熱中している時であり、38.%となっている。3位以下は、テレビ・ラジオを視聴する時(33.4%)、旅行をしている時(33.3%)、友人と食事や雑談する時(32.9%)となっている。表中の太字は40%を超えた項目を示しているが、日本はフランスと同様、40%を超える項目が少ないところに特徴がある。

韓国の場合も、子どもや孫と家族団らんの時が63.2%で、生きがいとして最も多い。第2位は、友人と食事や雑談する時で、46.6%となっている。この点はアメリカやドイツと共通する点である。韓国の特徴は、第3位に収入が上がった時(42%)という項目が入っているところにある。これに対して、日本を含む他の四カ国では、収入が上がった時に生きがいを感じる人は少ない。日本は7.7%であり、フランスはわずか3.5%である。韓国の場合、生活費に悩みやストレスを感じているひとが多かったが、この点とも整合的である。この他、第4位はおいしい物を食べている時で37.6%、第5位がテレビ・ラジオを視聴する時で26%となっている。

アメリカは、他国に比べて40%を超える項目の数が最も多いところに特徴がある。アメリカは、生きがいを感じている高齢者の最も多い国だと言えそうである。アメリカの高齢者が最も生きがいを感じるのは、子供や孫と家族団らんの時で、じつに71.2%に達している。第2位の友人と食事や雑談をする時は59.1%、この他、趣味に熱中している時(42.9%)、テレビ・ラジオを視聴する時

(42%)、旅行している時 (41.9%) と続く。

ドイツもアメリカと類似の傾向を示しており、40%を超える項目の数が多く、また、順序もアメリカと似通っている。第1位が、子供や孫と家族団らんの時で62.7%、第2位が友人と食事や雑談をする時で51.7%となっている。以下、旅行をしている時(47.2%)、趣味に熱中している時(46.5%)、おいしい物を食べている時 (40.9%) と続く。

フランスは、日本と同様、40%を超える項目が子供や孫と家族団らんの時 (63.8%) 以外には見られない。第2位以下は、友人と食事や雑談する時 (34.3%)、趣味に熱中している時 (33.2%)、旅行をしている時 (31.1%)、夫婦団らんの時 (30.5%) と続く。

なお、項目別にみていくと、国民性が表れていて興味深い。例えば、仕事に生きがいを感じているのはアメリカと韓国で多く、フランスで少ない。また、勉強に身を入れている時に生きがいを感じているのはドイツでは多いが、フランスではほとんど見当たらない。スポーツはドイツで多い。さらに、社会奉仕については、アメリカとドイツで多く、その他の国では少ない。ペットと過ごす時に生きがいを感じるのはアメリカ、ドイツ、フランスで多いが、日本と韓国では少ない。

表6-7 生きがいを感じる時

	(%)				
	日本	アメリカ	韓国	ドイツ	フランス
仕事にうちこんでいる時	16.9	29.6	20.2	16.1	7.0
勉強等に身を入れている時	8.9	9.4	3.6	10.4	0.7
趣味に熱中している時	38.1	<b>42.9</b>	15.8	<b>46.5</b>	33.2
スポーツに熱中している時	8.2	9.1	4.9	16.1	8.1
夫婦団らんの時	25.5	39.1	25.3	38.4	30.5
子供や孫と家族団らんの時	<b>48.2</b>	<b>71.2</b>	<b>63.2</b>	<b>62.7</b>	<b>63.8</b>
友人と食事や雑談する時	32.9	<b>59.1</b>	<b>46.6</b>	<b>51.7</b>	34.3
テレビ・ラジオ視聴する時	33.4	<b>42.0</b>	26.0	39.7	28.5
社会奉仕・地域活動する時	9.0	25.3	6.7	15.3	8.3
旅行に行っている時	33.3	<b>41.9</b>	19.2	<b>47.2</b>	31.1
他人から感謝された時	13.9	<b>41.5</b>	21.9	39.9	17.8
収入があがった時	7.7	21.3	<b>42.0</b>	14.4	3.5
おいしい物を食べている時	29.8	<b>42.6</b>	37.6	<b>40.9</b>	28.8
若い世代と交流している時	8.8	28.6	11.7	16.7	17.1
おしゃれをする時	10.3	25.7	10.8	21.1	9.0
ペットと過ごす時	9.4	23.8	2.3	17.0	16.4
その他	5.3	2.3	2.8	5.1	1.1
わからない	2.9	1.6	6.4	1.3	2.7
無回答	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1

## IV 総合的な生活満足 (Q55)

### 1 各国の特徴

最後に、総合的な生活満足について見ておこう。表6-8は、総合的な生活満足度を各国別に示した表である。

日本の高齢者は、「満足」が34.6%、「まあ満足」が56.7%となっていて、全体の9割以上が現在の生活に満足している。「やや不満」(7.5%)と「不満」(1.2%)を合わせても、1割未満で少ない。

これに対して、韓国の高齢者は、「満足」が11.1%、「まあ満足」が58.3%となっていて両方合わせると約7割に達するものの、「やや不満」が24.9%、「不満」が5.8%いて、約3割が現在の生活に不満を感じている。これは今回の調査の5カ国のなかでは、例外的に高い。

韓国の高齢者の対極にあるのがアメリカの高齢者で、なんと4分の3の高齢者が現在の生活に満足しており、「満足」と「まあ満足」とを合わせると95%を超える。「やや不満」(3%)と「不満」(1.3%)を合わせても、5%に満たない。

アメリカと韓国を両極とすると、これらの中間にあるのがドイツとフランスの場合である。これらの国は現在の生活に満足している高齢者が(「まあ満足」を加えると)9割を超え、現在の生活に不満をもっている高齢者が7~8%である。その意味では、日本も韓国とアメリカの中間に位置しており、ドイツやフランスに近い。

表6-8 各国別にみた生活満足(2005年)

	(%)				
	日本	アメリカ	韓国	ドイツ	フランス
満足	34.6	73.9	11.1	58.7	44.6
まあ満足	56.7	21.8	58.3	34.2	46.9
やや不満	7.5	3.0	24.9	6.3	6.1
不満	1.2	1.3	5.8	0.7	2.2

## 2 時系列の変化

生活満足についての質問項目は、第4回調査以来含まれている。したがって、この10年間の生活満足の変化を知ることができる。次に、第4回~第6回調査のいずれにも対象として含まれている日本、韓国、アメリカ、ドイツといった四カ国の高齢者の生活満足の変化について確認しておこう。図6-1~図6-4が、これら4カ国における生活満足の推移をみたものである。

これらの表からわかることは、いずれの国も10年前に比べれば、現在の生活に対する満足の度合いが高まっているということである。日本とドイツは2000年に生活満足度がやや減少したが、それからもちなおし、2005年の調査結果では1995年のときよりも満足度が高まっている。これに対してアメリカでは、「まあ満足」の割合が減っているが、「満足」の割合が増えているために、全体としての満足の度合いは高まっている。現在の韓国は、「不満」と「やや不満」の合計の割合が5カ国中で最も多い国であるが、その韓国でも10年前、5年前に比べれば改善されている。

図6-1 日本の高齢者の生活満足度の変化

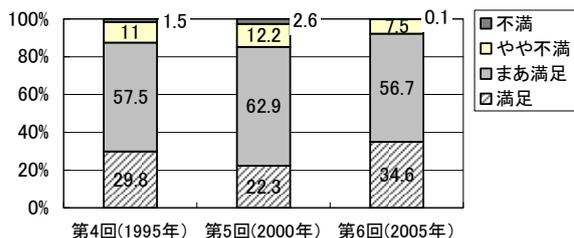


図6-2 アメリカの高齢者の生活満足度の変化

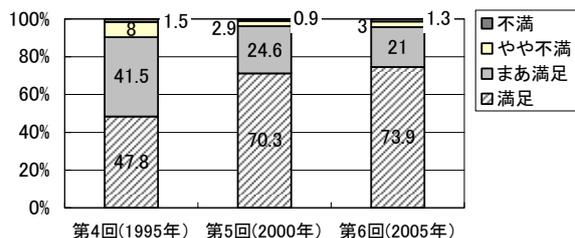


図6-3 韓国の高齢者の生活満足度の変化

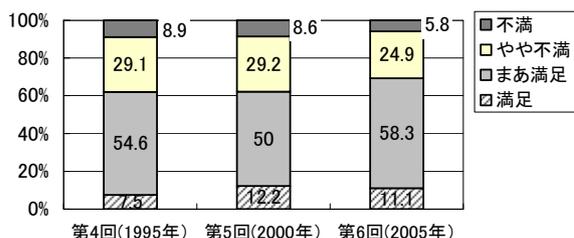
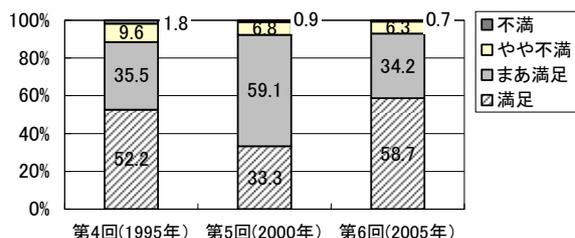


図6-4 ドイツの高齢者の生活満足度の変化



### 3 生活満足を高める要因

最後に、生活満足を高める要因を、日本に限って、表6-4と同様の方法で検討してみよう。生活満足については、満足とまあ満足を合わせて満足とし、不満とやや不満をあわせて不満とし、各属性が満足度を引き上げるためにどれくらい寄与しているか示したのが表6-9である。が生活満足に関するロジスティック回帰分析の結果を示したものである。この表から最初にわかることは、性別・年齢・配偶者との同居の有無は、高齢者の生活満足度を高めるうえであまり寄与していないという点である。これに対して、健康状態と経済状態による寄与は統計的に有意な結果となっている。健康なひとが生活に満足する確率はそうでないひとの3倍以上に達しており、経済的に困窮なひとが生活に満足する確率はそうでないひとの0.2倍、すなわち5分の1となっている。高齢者の生活満足度を考えるうえでは何よりも、健康状態と経済状態が大事である。

表6-9 生活満足に関するロジスティック回帰分析

	回帰係数	標準誤差	カイニ乗	有意確率	オッズ比	95%の信頼区間
性別(男)	0.20	0.31	0.40	0.52	1.22	( 0.66 ~ 2.24 )
年齢(74歳以下)	0.12	0.31	0.14	0.71	1.12	( 0.61 ~ 2.08 )
配偶者と同居	0.96	0.61	2.46	0.12	2.62	( 0.79 ~ 8.73 )
健康	1.16	0.53	4.80	0.03	3.19	( 1.13 ~ 9.01 )
経済的に困窮	-1.55	0.32	23.28	0.00	0.21	( 0.11 ~ 0.40 )
定数	0.55	0.76	0.53	0.47	1.74	